

## 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部(iCLA)のサンプル入試問題とその解説

本学部の入学者選抜方法について：

本学部の国内入学者選抜方法は「総合型選抜」、「学校推薦型選抜」、「一般選抜（個別テスト型）」、「一般選抜（共通テスト型）」の4つがあります。本学部独自の選抜方法を用いているのは、「一般選抜（共通テスト型）」を除いた、3つの方法です。その3通りの入学者選抜方法は、「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」の試験方法、そして「一般選抜（個別テスト型）」の試験方法の二種類に分類できます。

「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」は同じ出題形式を採っています。設問1で下記のような問題が英文で提示され、受験生はそれについて自分の意見を日本語の小論文にまとめた後、設問2の解答として日本語小論文を英語で要約するという形式です。解答時間は設問1（日本語小論文）と設問2（英語要約）を合わせて90分です。

一方、「一般選抜（個別テスト型）」では、受験生は設問1で日本語で自己の考えを記述します。時間は60分です。こちらの選抜方式には設問2として英語で自己の考えを記述する問題があります。「一般選抜（個別テスト型）」の設問2に関しては後述します。

### 設問1

Social media platforms such as Twitter, Facebook and Line have revolutionized the way individuals communicate. However, social media has also allowed certain users to bully and harm others online. What do you believe must be done? Do you think we should do something to prevent this situation? Or do you think we should not regulate social media? Provide reasons and examples to support your ideas.

上の質問は過去の問題を参考に作り直したサンプル問題です。ソーシャルメディアがもたらす社会の弊害についての質問です。いわゆる有名人の「炎上」に代表されるネットいじめが社会問題化していますが、「あなたは何らかの形で介入し、このような状況を止めるべきだと思いますか。あるいは規制をかけるべきではないと思いますか。」というのが設問の大意です。設問1の傾向としては、解決の難しい社会問題に関して、受験生に自己の考えを論述してもらうことが多いです。

### ポイント1：質問を把握する

まず質問が何かを正確に理解しましょう。何を問われているのでしょうか？“What do you believe must be done?”で分かるように、ネットいじめの問題に対してどうすべきかが問われています。そして更に、“Do you think we should do something to prevent this situation? Or do you think we should not regulate social media?”と続いています。つまり、ネットの規制をするか否かについての意見が問われています。ここで重要なのは、この種の問題が受験者の論理的な思考能力を判断するために出題されているということです。別の言い方をすれば、受

験者が必ずしも問題に精通し、細かい法律上の制約を熟知していることを想定しているわけではないということです。とはいえどんな問題が出ても答えられるように、日常的に新聞などを読んで世の中の出来事に目を配っておくとよいでしょう。

### ポイント2：導入の書き方

どのような立場をとるか、どのような例を出すかを決め、書き始めましょう。しかし、どのように書くか、というのも非常に重要な問題です。小論文では導入で自分の主張を明らかにすることが重要です。つまり上の例題に対する導入では、規制反対の立場をとるなら「私はソーシャルメディアを規制するべきではないと考えます。なぜなら・・・」というような形で主張を明確にしましょう。「なぜなら・・・」から続くのは主張の理由です。例えば「私はソーシャルメディアが自由な言論空間でありつづけることが重要だと考えます」という理由を付けることができます。主張はできるだけ具体的なものにしましょう。抽象的な主張はどうしても論旨がぼんやりとしてしまいます。はっきりとした具体的な主張をするように心がけましょう。

### ポイント3：本論の書き方

本論を書く上で重要な点が二つあります。一つは構成上の点であり、もう一つは内容に関するものです。構成上の話から始めましょう。

小論文を構成する上で、一段落につき主張を一つにすることが重要です。一つの段落の中で複数の論点を展開してしまうと、論旨が不明確になり、主張が弱くなります。例えば、公共空間としてソーシャルメディアを安全なものにするために規制するべきであるという主張をした場合、具体的な規制の方法と、それがどのように、またどのような点で安全な公共空間としてのソーシャルメディアを成立させるのかをひと段落ごとに一つずつ主張するのが良いでしょう。繰り返しになりますが、重要なのは一つの段落につき一つの論点を論述することで、読み手にとって論旨が明確になるように構成することが非常に重要です。

続いて内容に関してですが、できるだけ具体的な例を用いて、論理的に主張を展開しましょう。具体性のない主張や「私がそう感じたから」という主観的な議論は主張の説得力を弱めますので、極力避けましょう。個人的な体験などは、主観的になりがちな弱点があるものの、具体性のある体験談は説得力を持ちますので、有効です。また、反対の立場にも言及することは非常に大切です。本学では複数の視点から物事を見ることが出来る柔軟な学生を求めています。もし上述の設問に対する書き手の主張がソーシャルメディアの規制賛成派ならば、規制反対派の意見に言及する段落を一つ設けましょう。例えば、ソーシャルメディアの自由な交流が阻害される、という規制反対の意見があるとするならば、それに理解を示しつつも、いかに規制のメリットが規制なしのメリットを上回るか、という形で反対の意見に言及しながら自分の主張を補強します。

### ポイント4：結論の書き方

結論とは基本的には今まで論述してきた主張のまとめです。それはしかし、必ずしも今までの論述の中で語られていなかったことを結論に付け加えてはいけないというわけではありません。ここまで展開した主張を踏まえた上で、どのような展望が見込まれるかという広がりのある結論は、これまでの議論の延長線上にあるという点からもより望ましいと考えます。

さて、以上が設問1の回答のポイントでした。「一般選抜（個別テスト型）」の場合は、設問2の英語論述試験に移ります。「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」の場合は、設問2で自分の日本語小論文を英語で要約することになりますので、下記に英文要約のポイントを簡単にまとめます。

### 英語での要約のポイント

要約は一見簡単のように見えて難しいものです。設問1で自分が書いた小論文の要点を簡潔に英語で記述してください。主張を簡潔に明言してから、それをサポートしている本論の各論を要点に絞って記述しましょう。Transitional Words/Phrases (since, therefore, firstly, secondly, accordingly...etc.)を効果的に用いることで、文章の流れが自然になります。

「総合型選抜」と「学校推薦型選抜」の筆記試験はこれで終わります。

---

「一般選抜（個別テスト型）」で受験した場合、以下のような設問2があります。受験者は、英語で自己の考えを記述してください。

### 設問2

The COVID-19 pandemic has significantly changed our way of life, including one's life as a student. How has the pandemic impacted your high school life? What do you think you have lost/gained because of the pandemic?

### 設問2のポイント

コロナはあなたの学生としての生活にどのような影響を及ぼしましたか？コロナ禍によって何を失いあるいは得たと考えますか？という質問です。設問1と比べると分かりますが、設問2は社会問題に関する質問というよりは個人的な経験に関する質問で、その分答えやすいのではないのでしょうか。しかしながら、小論文の書き方は日本語であれ英語であれ基本的には同じなので、上の設問1で説明したポイントを押さえながら、分かりやすく論理的に記述するように心がけてください。

英語での論文は Transitional Words/Phrases (since, therefore, firstly, secondly, accordingly...etc.)などを的確に使いこなせると、非常にスムーズになります。